

問屋町トピックス

問屋町商和クラブ謡曲部

NHKテレビ放映で大いに張切る……………

部員15名(内婦人4名)をもって構成している謡曲部は創立より月3回渡辺容之助先生を迎えて1年半を経過した。今春から「高砂」に取り組んでいる。笑いの内にも厳正にそしてなごやかに順調に進み完全に7番をマスターしたようだ。1月16日には練習風景をNHKが取材して22日午前7時20分よりのテレビリポートに放映された。全部員は家庭において前夜は早寝し22日は早朝よりテレビの前に……今や遅しと待ちかまえた……サア出たぞ……数秒でチョン……後を待ったが遂におしまい。ナンダ練習風景は1時間以上もインタビューを交えて丁寧に撮影していったのに……と部

員全部が思ったことだろう。2月2日夜は新春謡い初めということにしていつもより早く17時半から会館2F和室が始まります。半月も前から当日を偲んで楽しんでいる会員もあるらしい。練習が済んだあとはお酒も出るらしいが定めし賑かなことだろう。終始姿勢の良い人、すぐに足痛を訴える人、声の高い人、太い人、低い人、大変上手な人……いや全員がとても上手ですよと先生が言っておられるように全員が思っているらしい。とにかく謡曲部の全員は好人物ばかりの集りらしいと誰かが言っておられた。「入会歓迎。初心者はお大歓迎」(受講料1ヶ月1,500円)

協同組合 金沢問屋センター 告知板

理事会報告

▷11月
4日 第2団地の町名を問屋町3丁目とする
18日 商団連主催青年経営者研修会について

▷12月
4日 終末処理場改修及び共同駐車場舗装について
28日 消防法改正について

事務局だより

▷11月
1日 問屋町交通安全対策協議会
交通死亡事故抑止Z作戦

について会員へ主旨説明
4日 労務委員会
女子社員第2回研修会、並びに若年従業員の余暇調査について協議
8日 事業委員会
委員会の所管事項について説明
10日 建設委員会
共同駐車場の増設と舗装について検討
近代化研究会
幹事会11月定例会打合
13日 問屋町交通安全対策協議会
運転者講習会開催
総務委員会
組合の運営について協議
17日 近代化研究会
11月定例会金沢経済大学助教授奥村実氏を講師に

迎え「伸びる会社の要素」を勉強
衆議院議員奥田敬和氏「政治経済の現状と今後の見通し」と題し講演
18日 問屋町交通安全対策協議会幹事会開催
19日 厚生委員会
第1回ダンスパーティーについて検討
20日 企画開発委員会
当面の協議事項について検討
28日 事業委員会
新年互礼会について打合せ
▷12月
1日 問屋町交通安全対策協議会
問屋町派出所塩崎巡査部長の功勞に対し感謝状贈呈

2日 広報委員会
3日 労務委員会
ビデオによる女子社員研修実施結果の検討
7日 建設委員会
終末処理場改修について検討
8日 近代化研究会
幹事会12月定例会打合
11日 総務委員会
第2団地の運営に関し協議
18日 企画開発委員会
体育館兼展示場新築について協議
▷1月
8日 近代化研究会幹事会
51年よりの定例会の生き方について協議
13日 広報委員会
新年号発刊について協議

＜編集後記＞

不況に暮れ、混迷に明けた75年、兎年から竜年へのバトンタッチでは「うだつ(兎竜)も上るまい」とな呑気な事もいってはいられない。

辞典を見ると、竜とは神通力をそなえ、変現自在、雲を越し、雨をよび、五穀豊作、無病幸福、平和前進をもたらすものとある。非常に結構な年ではないか、さて日本経済も48年10月の、オイルショック以来不況

といわれて3年越、昨年の政府、経済学者諸先生方の経済予測はオールハズレ、国家予算の30%を国債にたよっては、政府自身どうするのと言う所、さて問屋センター広報誌も、不況のせい、原稿集めに四苦八苦、政府の国債発行にならって、センター各社に原稿の依頼を配分し、一般公募はセンター事務局へ進んで投稿、紙面がたらずに来月まわりの原稿が山積……てな初夢を見ながら、いつのにか、新春号も無事発刊、竜年にちなんで今年も大いによろしく――。

協同組合 金沢問屋センター

第3号 1976年1月30日発行
協同組合 金沢問屋センター
発行者 小川 甚次郎
金沢市問屋町1丁目
電話 37-8585



生々庵

—低成長経済下の利潤追求を—

協同組合 金沢問屋センター
理事長 小川 甚次郎

昭和51年の初頭にあたり、謹んで新春のお慶び申し上げます。オイルショック以来低迷する経済状態のうちに迎えた新年であります。

今こそ国民の望むものは何かを改めて問いなおし、これに対応した産業構造を先ずくることが必要となってきました。幸い協同組合金沢問屋センターが完成して以来、その交通環境の整備が出来一層の発展が期待されております現在、関連施設を含め140社、さらに第2問屋団地の造成と完成後は170社を数えるまでに確固たる基盤ができました。これは偏に組合員各位の不断の御努力の賜と、深く敬意を表するとともに御同慶の至りであります。

昨年度は混乱からの脱脚に全精力を傾倒せざるを得ませんでした、新年度は低成長経済下での本当の新しい第一歩を踏み出すわけであり、その中で利潤追求に信念と勇気をもって当らなくてはならないところであります。

夜明け前の三更が最も暗く、春を迎えるお水取りの頃が最も寒いといわれております。目前は正に闇に閉ざされているが、それを打破するのは我々自身の努力以外にあり得ないと考えるところで。

'76 新年互礼会盛大に開催!

恒例の新年互礼会は1月5日午後2時、問屋センター会館ホールに於いて、安田隆明参院議員、島崎均参院議員、中西県知事、岡市長、宮太郎商工会議所会頭、北村友正同副会頭、今井源三自民党県連幹事長の他、多数の来賓と問屋センター各社々長、役員280余名の参席のもと、盛大にひらかれた。まず小川理事長より「不況に暮れた75年であったが、幸にも当問屋センターに於いては一社の落伍もなく、進展の一途をたどった事のご同慶にたえない、今年もこのきびしい経済情勢下において、問屋センター組合員のなご一層の団結をはかり、相互協力のもとますますの発展をきし

たい。又本年は新たに第二団地に強力な参加企業を加え名実共に日本一の問屋センターを指向しよう、との力強いあいさつのあと、中西知事はじめ各来賓よりそれぞれ、問屋センターの一致団結と日本有数の問屋センターとしての発展を祝福又激励を受け、開宴にうつつた。まず三郭の美妓の初舞のあと黒田武士の振付のもと「名槍日本号」高田天風氏の天をつく槍さばきに宴も最高潮に達し、北村氏の力強い万才三唱に本年の問屋センター並びに組合各社のますますの発展をお互いに約し、盛況の内に終了した。



◇ 新春《初詣》昇竜を祈願 ◇

互礼会に先だち、5日午後1時半より、新春初詣が問屋神社奉賛会会長、小川甚次郎氏はじめ、各社々長役員60余名参加のもと、問屋神社に於いて行なわれ、本年一年の協同組合問屋センターの発展と、各社の隆盛が祈願され、晴天にめぐまれた昇竜の年1976年の出発をかざった。

盛況だった吉例初市 繊維同業会

8日、9日に行なわれた初市は、各社を会場として、防寒コート類、春夏向の呉服、紳士服、子供服、寝具、等々、昨年の水面下の不況を、浮上させるべく、創意工夫を凝らして開催された。

今年の色彩面は、婦人紳士服飾とも、明るい色を基調にしている。今年の紳士既製服は、ヤングの部門に浸透した、スリーピースがシニアの部門にも広がりつつあり、色彩は昨年婦人服に流行したダーク調の茶色を主力に、明るい無地のブルー、グレー、茶が基調になるだろう。又、昨年の生産過剰によるバーゲン、今年も少し尾を引くかもしれないが、各社の自主的な生産調整によって一段落し、消費者の本当に欲しがっている、流行に強く、2、3年はおかしく感じられない物で価格、4~5万円上代の製品の需要が多くなっている。

婦人物の主力は、編から織りへの移行で、合化繊細番手使いの強燃糸織物の需要が急増している。昨年

は、ダーク調を主体とし、ロングへの変遷も有り、ファッション産業の長所をフルに生かした個々の企業努力により、他の業種に比べて順調な動きを見せています。

色彩は昨年同様ピンク、オレンジなど明色中心となっている。春夏物プリント物の柄も、モチーフは大柄から小柄へと変化して、スムーズから強燃糸の薄手織物へ変化している。

呉服部門は、盛装用のつけさげ染め着尺が中心だが、高級品の伸びに対して一般の大衆向の品が、伸び悩んでいる。一方加賀友禅の需要は依然盛んで、供給が追いつかない状態を続けている。

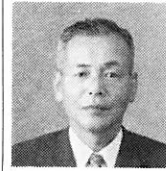
一方繊維部門全般に渡っては、利益率の低下、収益の悪化により、企業経営の回復の足どりは昨年延续了、極めて緩慢で、景気回復は、政府の見通して年末になる見込で、各位より一層の企業努力がのぞまれる。

昭和50年度 晴れの受彰者



小川 健
社長 小川 甚次郎

50年4月21日 藍綬褒章受彰
本組合理事長の外各種団体の要職にあり、永年に亘り地方中小商業の組織化および振興に寄与し、又我が国産業界に寄与した。



北陸通信工業(株)
社長 辰川 申治

50年4月21日 藍綬褒章受彰
社団法人、全国電話設備協会等各種団体の要職にあり永年に亘り、構内交換設備等通信設備工事業界に貢献した。



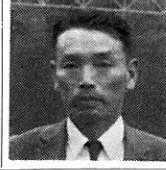
(株)寿商会
社長 若林 保四

50年10月20日 藍綬褒章受彰
多年納税思想の高揚に努め、関係団体の要職にあつて納税行政の円滑な運営に寄与した。



成瀬電気工事(株)
社長 成瀬 栄蔵

50年11月21日 黄綬褒章受彰
社団法人、日本電設工業協会等各種団体の要職にあり永年一貫して電気設備工事業界に貢献した。



中嶋 帽子
店主 中嶋 捨吉

49年12月4日 「緑を育て金沢を美しくする会」より表彰を受ける
問屋町地内を流れる、割出川の雑草除去、並びに問屋町地内の清掃等を献身的に行い、地域社会を美しくする為、日夜奉仕した。



不況ではない

株式会社コシハラ
社長 越原 哲郎

新年おめでとうございます。

昭和50年は波らんと不安で始まりました。年初から北陸機械の倒産があり又戦後最大の興人等々全く暗い長いトンネルに迷い込んだ格好で1年を終りましたがとも角にも無事新しい年を迎える事が出来ましたことを心からお喜び申し上げます。

政府はこの混迷から脱出を計るために四次に亘る不況対策を実施して来ましたが一向に好転の気配もなく本年を迎えたわけでございますが「苦楽は常に背中合せ」という言葉を想起し中途半端な考え方はとても乗り切れないこの四囲の情勢を正視し勇を鼓して対処せねばならぬと思えます。

この不況は今迄の様な単なる景気の波動ではなくオイルショックに依る需要構造の変化、世界的な市況不振などが背景となって居り今後たとえ多少の景気回復の兆があったとしてもなお長期的に低成長路線を迎らざるを得ない状況にあります。

そこで私は新年を迎えるに当り不況という言葉、不況という認識を返上して、これが普通の景気の状態であると解釈したいと思うわけでございます。不況という言葉は好況に対する言葉であり、即ち好景気到来を期待しての認識であろうと思われませんが、それではとても長期低成長路線には息がつづかなくなるのではないでしょうか、とにかく徹底的な企業体質の改善と強化に依り長期低成長路線に乗って安全運転不況感を払拭して安定経営を計らねばならないと思えます。いたずらに不況感に怯えることなく低下し限られた需要の中で節度ある営業活動に依り私共流通業者に課せられた使命と責任を完遂してこそ私達の企業の発展と繁栄がありひいては金沢問屋センターの発展につながるものと確信致します。

「うだつが上らぬ」という様なつまらない言葉に迷わされる事なく、この辰年が「上り竜」の年となる様念願しながら一言所感を記した次第でございます。



歳男のよこがを

小川商事株式会社
社長 小川 三郎

生来ぶ精な私は、めったに、あたまをキチンとしない。あたまの毛を刈りあげることが大嫌いである。洋服もツイードのブレザーなど着ることが好きでネクタイをキチンと結ぶよりトックリのセータが好きだ。どう見ても商売人とは思えない。よく知らない人から絵描きかブン屋さんかといわれることがある。

日曜日の私は必ずといっていい位1人で商店街へ行く、そして雑踏の中を歩く事が大好きである。ウインドを眺めたり、行きかう可愛い女の子や、素適な奥様に見とれたりする。

金沢の街にも随分、画廊と称するところもできたし、工芸品の展示会もある。そんな処を回り歩くと、3時間や4時間すぐたってしまう。何処かで好きなものを1品たべて昼めしにする。又おいしいコーヒーをのみ、喫茶店のガラス越しから見る女性の姿も楽しみの一つである。

そんな私にも、今年は5回目のエトウがやってきて、歳男になった。去年生まれた初孫から、やがておじいちゃん、と呼ばれることを覚悟しなければならない。孫は可愛いのが、やっぱりおじいちゃんはいやだなあと思う。不況だといわれていても、ヤングもミセスもおしゃれにたいは前向きである。今年も女性の特権であるおしゃれに全面的に協力し、若い女性の服飾に精一杯とり組んで生甲斐とし、ハリキルつもりである。



48才の抵抗

共栄電機株式会社
専務 高桑 健治

何んとなく

今年はいいことあるごとし

元日の朝 晴れて風なし

石川啄木の歌である。

北陸には珍らしく穏やかなお正月、金沢でタコあげを見たのは何年振りであろうか。

「今年こそは」「今度こそは」と言いながら、48才、年男の新春を迎えた。辰年の龍にあやかって、すべてが力強く浮揚するようにと祈りたい。

私自身が得た平和なお正月を、家族一同健康で迎えられることに、限りなく生きている喜びを感じた次第である。

私は幸い今まで至極健康である。(明日はわからないが……) 肉体的にも精神的にも健康でなければ経営者として社会的使命と責任を充分に果せないことは当然のことであるが、言うべくしてなかなかむづかしいことである。健康法も人それぞれであるが、数年前に早朝に15分程度の軽走を数カ月続けたことが二度ばかりある。なかなか長続きしないのは私の意志の弱さのようであるが、快食・快便・快眠の快適さが忘れられない。

今年こそ「生きのこれる企業」になるか、「生きのこれない企業」になるか——いよいよ厳しい年のようなのである。

48才の抵抗。に私なりに挑戦してみたいと覚悟を新たにして頑張り抜きたい。

私の提言

群 と 個

玉田商事株式会社
社長 越田 春雄

動物達の楽園、アフリカ大陸に生息する動物は、自分達よりも強い相手には、群を成して守るという手段を、生れながら、本能的に身に付けて、行動して居るのである。

中には、群の生存の犠牲となり、生命を断たれる物もあるが、より長く生きる為には、群を離れてはならないという、経験を積むのである。

又、自然界での宇宙現象や、物質の構成の上に於いても、それぞれの、不安定な原子が集束して、分子群を形成し、それが、更に安定度の高い物質を作り上げて、我々の前に一個の物体として、形を表現して居るのである。さて、我々人間社会に於いても、歴史が証明する如く、戦争は、最初個々の決闘方式が集団組織に発展し、より高度の戦果を上げる方法を作り出して居る。

これを経済の分野に導入したのが、チェーン方式であり、組合システムである。

世の中の変遷に従って、集団方式も色々変わるであろうが、現在は、協同組合組織が一番抵抗なく、入り易いとの結論から我々が今日、この地に協同組合金沢問屋センターを設立し、現在に至ったのである。

他産業、多業種が渾然一体となって運営される上に於いて、色々の障害が生じ、時には個々の利害が相反する場合も有り得るが、意識としては、アフリカの動物達の例に述べた様に、個々の小さな犠牲によって、群の大きなメリットを追求するのが本質ではなからうか。

或る日、夢から覚めて見ると、城下町金沢の遙か西北に、忽然と、大きな西部の町並みが出来上って居た。

あれから九度目のノンビリとした正月を迎え屠蘇気分浸って、徒然にタイムトンネルのスイッチを入れる。

昭和42年10月14日の画像が眼に入ってくる。

そこには、センターの役員、各社の代表のこやかかな笑顔と、それにも増して晴れがましい社員の誇りに満ちた姿など、大事業を成し遂げた自信のかお、顔が胸を張って歩いて居る。

個々の力では到底成し得ない群の実力を、しみじみとその時、感じさせられたのである。

画面は二転、三転、年々その群の実力を蓄積し商業

団地としての形成を増し、運営の上に於いても、各委員会の動きも活発化し金融面の上に於いても組合員は多くの恩恵を受け、3年に亘る世界的不況にも係わらず大地に根を下し、不動の容姿を業界に誇示して居るのが撮し出されて見える。

しかし、夢とはいえ、人間は時には自己本位に成り易い動物で有り、ジェキル・ハイド的でも有る。

自己本来の仕事を犠牲にしてまでも公共の前進の為に一生を尽す多くの人達も居れば、又半面、自己の利益の為に団体の損失をも厭わない者が出て来る場合も有る。

またまた、一切無頓着、無意識、無作為な人達も居る。これらが大きな円を造りぐるぐると廻って居るのが人間社会であろう。

前者を地球の中心部と見做せば、中者は地表で有り、後者は地殻であり内部で有る。

ともすれば、遠心力や外力で群から飛び出そうとする人々を、どろどろに煮え炊ぎった情熱の引力で引きつけ、永遠の繁栄を約束する、群になりたいものである。

お巡りさんへ 感謝状贈呈



問屋町交通安全対策協議会では、12月1日問屋町派出所塩崎巡査部長に対して感謝状を贈呈した。氏は問屋町着任以来問屋町交通安全対策協議会活動ならびに各商社の運転管理者の指導育成に尽力され、又地域住民に対する奉仕活動、交通事故と犯罪の防止に献身的努力をされてきた。

贈呈日には御夫妻で出席され小川理事長、井上会長より感謝状と記念品をおくった。



大賑わいの現金セール

金沢問屋センター繊維同業会では11月20日、21日の両日問屋町会館2階ホールで現金セールを参加28社により開催した。団地発足以来開催し、今年で8回目となったこの売り出しは、いまや問屋町の名物行事となり、開店前には北陸3県のお得意先の長蛇の列が続き、日頃の感謝をこめた各社えりぬきの商品を破格の値段で買い上げ、売上高は6,000万円をあげ、大変盛況な販売大会であった。



◇第二団地建設状況◇

50年3月に造成完了した第2団地は、今年度は4企業が建築を行っており、うち㈱立元商店、北陸ペイント㈱の2社が完成し全面移転した。残りの共栄電機㈱、紙谷物産は、3月中に完成すべく建築中である。51年度建築予定企業は塔島毛糸㈱、高島電機㈱、㈱内外電機製作所、三和通商㈱、福助商事㈱の5企業です。



楽しくダンスの夕

第1回ダンスパーティーが12月19日、午後6時より問屋町会館2階ホールを会場に開催された。これに先立ちダンス講習会が12月3日より17日の7日間コースで催され、ブルース、ワルツ、ジルバ、マンボの4種目を受講者100名が練習し当日にのぞみました。

パーティーには200名が参加し、組合員北陸通信工業㈱の「北通リズム・ハウラズ」の生演奏も手伝って盛り上げた雰囲気で行われ、クラシックダンスの外、ロックまで飛び出しリズムに合せホール狭しと軽やかなステップで踊り続け9時のラストダンスには蛍の光の曲に合せ、それぞれのパートナーと最後のダンスを楽しみ終了しました。はじめての試みで参加者は少なかった様ですが、第2回目はより盛大に開催し社員の交流の場としたいと思っておりますので、皆様の参加をお願いします。

